

よこまくらいせき
16. 横枕遺跡

所在地：大野市横枕

調査原因：一般国道 157 号道路改良工事

調査期間：平成 22 年 5 月 17 日～11 月 30 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：5,200 m²

時代：奈良・平安時代、近世



位置図 (S = 1/50,000)

調査の概要 遺跡は、東を真名川、西を清滝川に挟まれた場所にあります。全長約 700m にわたる調査区を 1～24 区に分けて調査した結果、奈良・平安時代の大きな村の存在が明らかになりました。今回は、古い道路を取り除いて 25～34 区を設定し、調査を行いました。

25 区の遺構と遺物 25 区は横枕集落から北方に離れた地点で、**竪穴住居 3 棟 (SI1～3)**、**掘立柱建物 7 棟 (SB1～7)**、**溝 2 条 (SD3・4)** が見つかりました。掘立柱建物 SB3 は 2×5 間の大きさを有し、竪穴住居 SI1 を壊して建てられていました。SI1 の中には、須恵器、土師器、河原石が散乱し、県内において発見例が少ない「カマド」を備えていた可能性があります。

27 区の遺構と遺物 27 区は横枕集落から南方に離れた地点で、**竪穴住居 1 棟 (SI1)**、**掘立柱建物 7 棟 (SB1～7)** が見つかりました。竪穴住居 SI1 の中には、炉跡が見つかり、周辺に須恵器、土師器が散乱していました。竪穴住居 SI1 の南側には 2×3 間の大きさをもつ掘立柱建物 SB5 がならんで見つかりました。27 区周辺の A'～E102-112 グリッド付近では、同じ方向を向いた建物が集中することがわかりました (図 1 の右)。

28 区の遺構と遺物 28 区は横枕集落の南方の地点で、21 区で見つかった 3×7 間の規模を有する大型の掘立柱建物 SB1 の続きを確かめることができました。その他にも、**掘立柱建物 1 棟 (SB2)**、**竪穴住居 2 棟 (SI1・2)**、幅 10～15m、深さ 0.3～0.8m の川跡も見つかりました。27 区と同様に、A～E81-89 グリッドの範囲も、建物群が集中することがわかりました (図 1 の左)。

34 区の遺構と遺物 34 区は 27 区と 28 区に挟まれた調査区で、**竪穴住居 1 棟 (SI1)** と **掘立柱建物 1 棟 (SB1)** が見つかりました。これらの建物も一対となっていた可能性があります。

29～33 区の遺構と遺物 29～33 区は横枕集落の北方の地点で、29 区では**竪穴住居 1 棟 (SI1)**、**掘立柱建物 1 棟 (SB1)**、30 区では**竪穴住居 1 棟 (SI1)**、**掘立柱建物 3 棟 (SB1～3)**、32 区では**土坑 2 基 (SK1・7)**、**大型土坑 3 基 (SI1～3)**、33 区では**溝 1 条 (SD2)** が見つかりました。

まとめ 調査の結果、遺跡は 8 世紀後半から 9 世紀前半代の時期に営まれた村であり、建物は一定方向を向き、ほとんど重複するものはありませんでした。生活で使用された土器も少なく、一時期、必要に応じて築かれた、倉庫群を主体とした村と考えられます。(鈴木篤英)



25区 竪穴住居 S11 にはカマドがあった？



27区 竪穴住居 S11 と掘立柱建物 SB5 撮影②



28区 大型掘立柱建物 SB1 の西側の柱列 撮影①

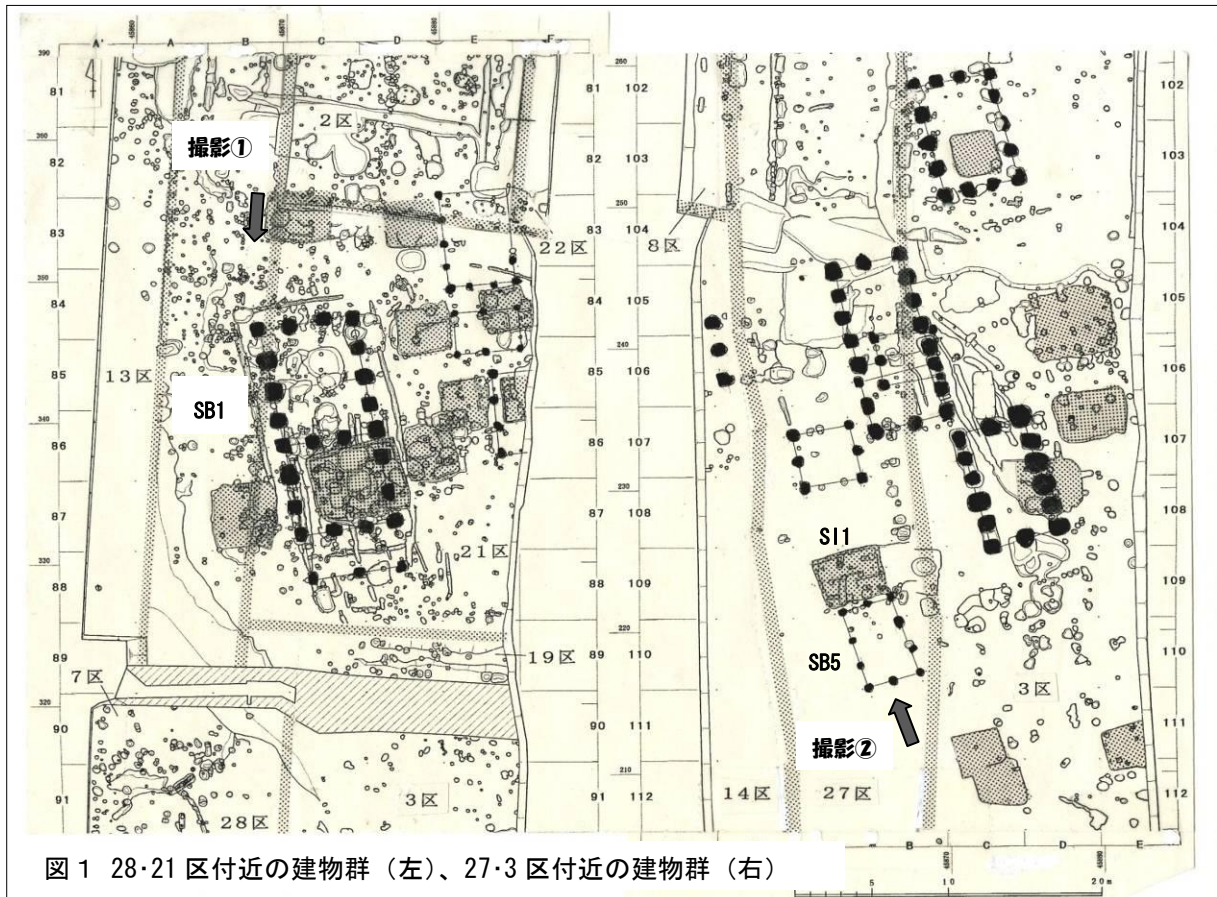


図1 28・21区付近の建物群（左）、27・3区付近の建物群（右）